



公益社団法人日本心理学会 認定心理士の会
オンライン公開講演会



動物の時間

— 実験データが示すもの —

2023年6月18日(日)

13:30~15:30/開場 13:20/オンライン開催

主催 / 公益社団法人日本心理学会 認定心理士の会

企画 / 公益社団法人日本心理学会 認定心理士の会 オンライン支部会

坂田省吾 (広島大学), 池田琴世, 石川裕美子, 荻野貴美子, 竹中あかり, 目片晃子

申込み締め切り/2023年6月11日(日)

【参加方法】オンライン開催(zoom) ※通信費は参加者負担となります。

【募集人数】150名 先着順 【参加資格】どなたでもお申込みいただけます。

【参加方法】web 会議サービス「Zoom」を使用することでご参加いただけます。/録画・録音はご遠慮ください。/インターネットに接続しているパソコン、タブレット、スマートフォンが必要です。/パソコンの場合はビデオカメラとマイク(パソコンにセットされていない場合はヘッドセット)が別途必要となります。/意見交換をいたしますので、お顔とお声が出せる状態(ビデオ・オン, マイク・オン) でのご参加をお願いします。

【申込方法】日本心理学会ホームページにてご案内しております。

下記の申し込みサイトより該当の「イベント名」と「開催日」をご確認の上、必要事項を入力してお申込みください。

締切日以降に折り返し、参加方法をご連絡いたします。

URL : <https://psych.or.jp/authorization/ninteinokaievent/>



坂田省吾 先生

広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授

人の生活の中で時間は関心あるテーマの一つです。楽しいことをしているときには時間はあっという間に過ぎ、退屈なときは時間経過が遅いと感じた経験は皆さんもお持ちでしょう。この時間認知は心理的時間とも呼ばれます。心理的時間は経験ではわかっていても時間の長さをどのように脳が計測しているのかはまだわかっていません。今回はラットを用いた実験的研究の話です。餌を欲しがる条件においたときの、すぐにもらえる小さな報酬(SSR)と待つことで大きな報酬(LLR)がもらえる場面を設定して、ラットがどちらを選択するのか、時間価値割引をラットで測定した研究紹介です。待つことの難しさについて一緒に考えましょう。

